

創る

地域活性化リポート

NPO法人農業情報総合研究所は、FM世田谷（83・4メガヘル）のラジオ番組「農といえるニッポン！」（毎週土曜日、午後6時）を通して、農や食の情報を発信しています。そのほかにも、フェイスブック、ツイッター、ブログ、勉強会の開催、講演などさまざま活動を行っています。

農と食の情報コミュニケーション

10年ほど前、BSE（牛海綿状脳症）や中国の食品偽装などのニュースを聞き、食の安全・安心さらに、農業について大丈夫なのかどうでも怖くなつたことです。どうの分からなかつたからです。ちょうどそのころ、農学部に通う大学生たちから話を聞く機会があり、自分が学びたいと思った農や食の情報をたくさんいただきました。そこで、農や食を専門に学ぶ大学生たちや生産の現場の方々

からの情報を広く消費者に届ける活動として、04年5月にラジオ番組「農といえるニッポン！」がスタートしました。

これまで私は全国の多くの生産者にインタビューさせていただきました。最近、地域の生産者と消費者の距離をより近づけるため、地元の生産者と世田谷区都市農業課に協力をお願いし「世田谷区の

NPO法人
農業情報
総合研究所理事長
植村春香



農業

を取り上げました。

世田谷区では野菜、果実、苗物、切り花、盆栽など多彩な農業が行われています。地場の「大根」^{だいこん}は、江戸東京野菜の一つとして人気があります。そのほとんどが地元で消費されています、旬をはずすと手に入りません。インターネットしたある主婦からは「地元にそんな大根があつたのを知らなかつた。ぜひ、食べてみたい」という答えが返つてきました。その話を大蔵大根の生産者に伝



えると、朝採れた中で一番立派な大根をご提供していただき、主婦にお渡しすると、その大きさにびっくりしていました。数日後、主婦は「とてもおいしく、葉は塩もみ、ごま炒め、おみそ汁、実は大根おろし、サラダ、ナムル、皮はシンクや窓ガラス磨きに、丸ごと1本使い切つた」と話していました。

この内容は「農といえるニッポン！」でも放送させていただきました。生産者は「おかげで大蔵大根は有名になつたけれど、生産者は限られている。もつと地元に

知つてもらえば生産者も増えると思う。がんばっておいしい大根を作つていい」と話していました。

うえむら・はるか
東京農業大学「食と農の博物館」運営委員。FM世田谷「農といえるニッポン！」を担当。FM世田谷のサイトからライブ配信。

取材で畑に行くとみなさん温